



TITLE:

京大広報 No. 216

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 216. 京大広報 1981, 216: 121-124

ISSUE DATE:

1981-05-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209470>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 216

京都大学広報委員会



ライ菌の電顕像 — 関連記事本文 122 ページ —

目 次

<紹介>

医学部・

皮膚病特別研究施設…………… 122

<随想>

中国と仲よく

名誉教授 薮内 清… 123

昭和56年度創立記念日行事

音楽会の開催…………… 124

日 誌…………… 124

写真説明

医学部・皮膚病特別研究施設で開発されたフリーズ・レプリカ装置によるライ菌の電顕像：人ライ病巣内のライ菌（菌の巾は約 0.25 μ ）。ライ菌の細胞壁の表面には、帯状構造が見られる。

<紹 介>

医学部・皮膚病特別研究 施設

WHO（世界保健機構）資料によると、1975年の世界154か国のライ（ハンセン氏病）登録患者数は3,599,949人である。世界の全患者の実数は、おそらく登録患者の3倍と推定されているので、世界では1,000万人以上の人々がライ菌という微生物に苦しめられていることになる。世界の人口を44億とすると、地球上の人類は400人に1人の割合でライに罹患している。

本学部の皮膚病特別研究施設は、実は、このライという病気の研究・教育・診療のために設置されている施設である。

本学部では明治以来、附属病院の中で、ライの研究・診療を行なう伝統が受け継がれてきた。「皮膚科第5診察室」にはじまり、大正13年には「皮膚科特別研究室」となる。昭和12年度には現在の建物が出来上り、名称も「皮科特別研究室」に変る。さらに昭和32年からは「皮膚病特別研究施設」となって現在に至った。

戦前、ライの治療が、まだ確立していなかった時期には、小笠原 登助教授の献身的な努力によってこの研究施設における研究・診療が支えられてきた。戦後は幸にして、ライが昔のような「不治の病」ではなくなり、プロミンなどのスルホン剤や「リファンピシン」などの新しい薬剤により、確実に治癒する病気になってきた。研究施設のメンバーも新しい世代に移り、ライの化学療法、電子顕微鏡病理細菌学、ライ菌培養実験、ライの免疫、生化学など、多くの領域で研究が行なわれるようになって来た。この間に、当研究施設と海外のライ研究機関との研究交流も盛んになり、特に1958年以降、インド、ベネズエラとの研究交流が盛んになった。

最近ライ病学の領域では、実験動物への人ライ菌接種の成果が著しいが、特に「アルマジロ」への人ライ菌接種に関連して、当研究施設とア

メリカ、ベネズエラ及びパラグアイにおける研究機関との共同研究が行なわれている。

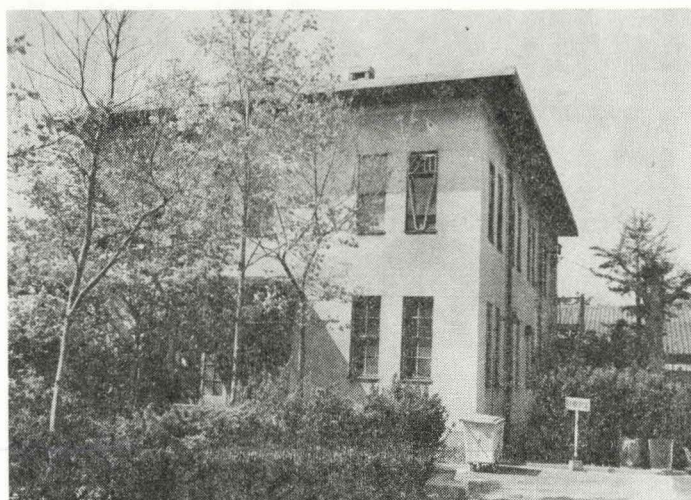
また、研究施設には附属病棟があり、入院を要する患者の治療に役立っている。特に本学部学生の臨床教育に際して、直接患者に接しながらベッドサイド及び外来の実習を行なうことが出来、若い医学生がライの問題を直接に肌で感じとることの意義は大きい。

近頃は特に療養所入院患者の高齢化により腫瘍などの合併症が増加し、当研究施設を通じて本学部附属病院に治療を委託される例が多くなって来たが、本学部にライに対する偏見がないため、臨床各科の極めて積極的な御協力をいただいている。

1,000万人という世界のライ患者数から考えて、ライの問題は今後も長く続く、医学の重要な課題の一つである。ライの根本的な解決には、個々の患者の治療とともにライ濃厚地域におけるライ予防が重要な問題である。このためにはライの基礎医学的研究が今後益々必要となり、世界の各地における研究もこの方向に進みつつある。

本学部附属病院構内西南端の、この小さい研究施設の中でも、スタッフ一同（教官3名、研修医1名、技官10名、事務官1名、非常勤職員1名）、これからのライ研究の進展の一端を担うものでありたいと努力している。

（医学部）



皮膚病特別研究施設、建物の後方に10床の病棟がある。

昭和56年度創立記念日行事音楽会の開催

本学では、創立記念日（6月18日）を祝し、音楽会を下記のとおり開催いたします。
本学教職員、学生の来聴を歓迎します。

演奏者 安田謙一郎（チェリスト）
日 時 昭和56年6月5日（金）午後6時開演
場 所 京都府立勤労会館
京都市中京区烏丸九太町下ル
（市バス、地下鉄 烏丸九太町下車）

演奏曲目

バッハ 無伴奏チェロ組曲第1番ト長調
BWV1007
バッハ 無伴奏チェロ組曲第5番ハ短調
BWV1011
バッハ 無伴奏チェロ組曲第3番ハ長調
BWV1009

演奏者略歴 やすだけんいちろう 安田謙一郎

1944年生まれ。1955年齊藤秀雄氏に師事。1964年 前橋汀子らと共に 桐朋弦楽四重奏団を結成。
1966年毎日新聞社・NHK共催第34回音楽コンクール第1位・海外派遣コンクール特別表彰受賞。

1966年第3回チャイコフスキーコンクール第3位入賞。ガスパール・カサド氏、ビエール・フルニエ氏に師事。1969年以降、ルツェルンフェスティバル合奏団のソリストとしてヨーロッパ、アメリカ、日本等の海外演奏旅行に同行。1970年ヨーロッパ各地でデビュー。コンチェルト、リサイタルに出演。以来ヨーロッパ各地のフェスティバル、演奏旅行で活躍。1973年にはデッカ・ロンドンにてビバルディのチェロ協奏曲を録音。1975年より東京に居をかまえ、リサイタル、オーケストラとの協演、レコーディングなどに幅広く活躍する一方、桐朋音楽大学の専任助教授として後進の指導に力を注いでいる。

入場無料

- 備考 1) 職員証または学生証を持参してください。
2) 定員1,300名先着順とします。
(学生部)

日 誌

(1981年4月1日～4月30日)

- | | |
|--|---|
| 4月4日 名誉教授称号授与式 | 18日 連合王国（イギリス）Imperial 理工科大学 |
| 〃 退官教授懇談会 | 長 Flowers 卿来学、総長および関係教官と懇談 |
| 7日 大学院審議会 | 20日 総長、職員組合 交渉 |
| 8日 同和問題委員会 | 21日 評議会 |
| 〃 スウェーデン王国 Karolinska 研究所長 B. Pernow 氏来学、総長と懇談 | 22日 体育指導センター管理運営委員会 |
| 9日 医療技術短期大学部入学式 | 26日 総長、ドイツ連邦共和国における高等教育・研究機関の視察のため、ドイツ連邦共和国を訪問（5月10日まで） |
| 11日 学部入学式 | 27日 組換えDNA実験安全委員会 |
| 〃 大学院入学式 | 〃 発明審議委員会 |
| 13日 経済研究所研究棟増築竣工披露式 | |
| 15日 国際交流委員会 | |
| 17日 環境保全委員会 | |